



杉山産婦人科 無痛分娩について

当院では、通常のお産はもちろんのこと、和痛分娩、無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）いずれの方法を選んでいただいても、安全な出産ができるよう万全の準備を整えています。

合併症がなく分娩が正常に経過しているときには多くの場合、自然分娩が可能であり、その範囲内では陣痛が赤ちゃんに悪影響を及ぼすことはありません。しかし、分娩中に不安や恐怖感、あるいは強い陣痛によるストレスが母体にかかること、お産はスムーズではなくなり、赤ちゃんにも悪影響を及ぼすこともあります。従って、分娩中の陣痛を適切な方法で和らげることは、安全に出産をするひとつの方法とも考えられます。

無痛分娩とは

無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）は、背骨の中にある硬膜外腔という部分に麻酔薬を注入する方法です。細い管の先端を硬膜外腔に留置して、この管を通して麻酔薬を注入することにより、比較的長時間にわたって麻酔効果を得られます。

無痛といってもすべての感覚がなくなってしまうわけではなく、多くの場合ある程度触っている感覚や圧迫感が残ります。

【無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）のメリット】

- ・鎮痛効果が強く、長時間効果を保てる。 → 麻酔薬を持続的に流すことができるので長時間の分娩に対応可能
- ・意識は正常に保たれる。
- ・使用する麻酔薬の濃度・量により、痛みの変化に対応したり、鎮痛効果に強弱を持たせることができる。
- ・直ちに帝王切開に移行できる。
- ・骨盤底の筋肉を弛緩させ緊張をとることで産道が広がりやすくなり、赤ちゃんの娩出を容易にする。
- ・循環器呼吸器系・妊娠高血圧症候群などの合併症があっても、経膈分娩が可能である。

【無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）のデメリット】

- ・穿刺困難例や効果が不十分な場合（片側効果）、穿刺が複数回となることがある。
- ・持続的点滴を必要とし、食事はとれない。（誤嚥性肺炎・窒息のリスク）
- ・分娩後、麻酔効果が消失するまで行動制限がある。（ベッド上で過ごす・導尿など）
- ・子宮収縮剤が必要になることがほとんどである。
- ・持続的分娩監視装置の装着が必要となる。
- ・分娩後の出血が多くなることがあり、このため輸血をするリスクが高くなる。
- ・吸引分娩、鉗子分娩になることが多い。
- ・副作用（合併症）がある。

〈比較的頻度の高い合併症〉

- ・血圧低下、嘔気・嘔吐、発熱、掻痒など

〈頻度の低い合併症〉

- ・局所麻酔薬中毒：カテーテルの血管内迷入により起こる。局所麻酔薬注入後、5分以内に症状が出ることが多い。
症状 → 耳鳴り、舌や口唇のしびれ、金属様の味覚、めまいなど
- ・高位（全）脊髄クモ膜下麻酔：カテーテルのクモ膜下腔迷入により起こる。硬膜外腔に注入した局所麻酔薬の効果がでるのは、注入後15～20分かかるが、クモ膜下腔迷入した場合5～10分後には下肢の運動制限が生じる。
症状 → 下肢が全く動かせない、呼吸が苦しい。
- ・頭痛：硬膜外麻酔針による偶発的な硬膜穿刺
- ・褥瘡：同一体位による長時間の圧迫
- ・排尿障害：無痛分娩や児頭圧迫による神経損傷によって、一時的に起こることがある。
- ・神経学的合併症：知覚神経麻痺、硬膜外血腫、直接的な神経の損傷
- ・感染



【当院での無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）の困難例】

- ・ 出血など循環血液量の減少状態
- ・ 出血傾向
- ・ 全身や刺入部の感染
- ・ 特定の心疾患や神経疾患
- ・ 穿刺困難例：腰椎椎間板ヘルニア、側弯症、高度肥満

杉山産婦人科における無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）

【分娩実績 2024年】（全分娩取り扱い件数 942件）

無痛分娩件数：708件
自然分娩件数：117件
帝王切開術件数：117件

- ※ 原則的には計画分娩となります。→基本的に頸管拡張、子宮収縮剤が必要です。医師の判断により自然の陣痛発来を待ってからの無痛分娩となる場合もあります。
- ※ 自然陣痛発来を待ちたい、分娩誘発（頸管拡張）はしたくないという場合は、主治医に相談してください。陣痛待機となり硬膜外麻酔分娩ができないこともあります。
- ※ 当院では、24時間無痛分娩（硬膜外麻酔分娩）に対応しております。計画分娩を予定していた方の入院前の陣発にも対応させていただきますので、ご安心ください。
- ※ 分娩進行状況は個人差があります。なかには分娩までに数日かかる場合や進行せずに一度ご帰宅いただく場合もございます。その際、管理費やベッド差額などの追加入院費用が必要となります。ご了承ください。

準備のための前泊入院

無痛分娩を安全に行うため、あらかじめご入院いただき、前処置をしてから分娩に臨むため計画分娩となります。

- ・ 入院後に子宮の出口を柔らかくして広げる処置を行います。（ミニメトロという水風船のようなものを挿入します。）

【メリット】

器械的に子宮口が開き、子宮収縮剤が安全に効果的に使用できる。

【デメリット】

異物を子宮内に挿入することから感染の可能性がある。まれに臍帯が赤ちゃんより先に出てきてしまうことがある。

- ・ 硬膜外麻酔カテーテルの挿入は、入院後または計画分娩当日に行います。
- ・ 入院日の22時以降は禁食となります。